

【面影】地域の未来づくり懇談会 開催概要

- 1 日時 令和5年11月20日(月) 18時45分～20時00分
- 2 場所 面影地区公民館
- 3 出席者 地区10名 市6名(竹間市民生活部長、北村協働推進課長、小森交通政策課長)
- 4 テーマ ①世代間交流の推進について
②住みよいまちづくりの推進について(くる梨、循環バス)
③住みよいまちづくりの推進について(面影山の周辺整備)

5 概要

【地元あいさつ】

本日はお忙しい中、地域の未来づくり懇談会に出席いただきお礼を申し上げます。以前は、市長との市政懇談会だった。今日は、当地区の未来を創っていく懇談会ということで、テーマに対し市の意見を伺い、より良い地域づくりの参考となるような意見交換をお願いしたいと考えている。

【市民生活部長あいさつ】

本日は、当地区の皆様が安心して住み続けられるとともに、活性化してより良い地域となるよう、地域と市が一緒になって取り組めることがあればと思い来させていただきました。これから先に向け、皆様とさまざまな知恵を出し合いながら意見交換できればと考えている。

テーマ①「世代間交流の推進について」

【地元(説明)】

《テーマの背景と理由》

当地区は人口や世帯数が多く、学校、病院やスーパー等々があり、住みやすい地域だと実感しているが、他地域と同様に少子高齢化の現状がある。今のまちづくりの主力は70代のため、若い世代(特に子どもを持つ世代)との交流を進めていきたいと思い、毎年、まちづくり協議会と合同で子どもと一緒にいろいろなイベントで盛り上げていこうと考えている。

《地域の取り組み》

世代間交流を推進する取り組みに、面影山を中心とした事業としては、地域住民と小中学生等を対象にふれあい面影山ウォークを実施している。また、公民館事業として長年にわたり、いきいき面影っ子ひろばを実施している。

《課題(アドバイスをお願いしたいこと)》

毎年、同じ事業(行事)を実施することは、地域(運営側)の負担軽減になるが、事業への参加者が固定化される傾向にあり、世代間交流がなかなか進まないと感じている。また、これらの事業は市補助金等の活用でほぼ成り立っているが、補助対象経費の判断(振り分け)が難しいと感じているし、地域の未来を担う若い世代や子どもたちに当地区を好きになってもらう、あるいは魅力ある事業を実施するため、まちづくりに関する補助対象経費の拡充をお願いできないかと思っている。

内容がテーマ③と重なるが、以前、補助金等を活用し面影山の環境整備で標柱(文学の散歩道)や東屋を設置したことがある。面影山は、因幡三山の中でも歴史とたくさんの史跡があり、地域内外の方に広く認知されているにもかかわらず、登山道に標柱がないため、(令和5年度に)地域で標柱を手作りし設置した。このような整備についても、まちづくりに関する補助金等が拡充いただければ、もっと多目的な取組ができ、世代間交流の推進が図れ、かつ地域の活性化につながるのではないかと考えている。

【協働推進課】

面影山を調べてみると因幡三山ということで歴史も深く、非常に趣き深い山だと思う。このたび、面影山の環境整備にご活用いただける補助金等がないか調べてきたのでお伝えしたい。

当地区は、県から指定された中山間地域のため、本市地域振興課が所管する「輝く中山間地域創出事業補助金」がご活用いただけると思う。計画策定(補助率10分の10)として3万円以上10万円まで、計画策定後のソフト事業(補助率5分の4)として上限200万円となっている。このソフト事業を複数年で取り組む場合は、最大3年間で累計200万円となる。

今年採択された事例として、湖南地区の登山道整備がある。自分たちが取り組む整備に必要な資材の購入、階段の整備、東部森林組合への部分的な伐採委託などが内容に含まれている。補助金の活用について、担当課に具体的なお相談をしていただけたらと思う。

もう1点、一般財団法人自治総合センターの一般コミュニティ助成事業がある。これは宝くじの掛け金が原資になった補助金で、例えば簡易な東屋に関しては該当になるのではないかと思う。ただ、全県で(採択される)件数と金額が決まっているので、計画をしても優先順位により採択になるかわからないため、何年かかかってしまうこともある。この助成は、最低100万円以上で上限250万円、(10万円未満の端数や)上限250万円以上のかかった経費は自己負担となる。東屋に関しては、建築物ではないという証明が必要なので本当に簡易なものと思っていただければ。

【地元】

東屋は新築が対象か。今、面影山にある東屋が経年劣化で傾いたりしているが、補修のときも宝くじ助成(100万から250万)が活用できるか。

すぐすぐ危険という状況ではないが、東屋の片方が沈下しているので、柱を一部持ち上げる、あるいは基礎部分に作業が必要かもしれない。山の頂上に建っているため、地元で直すのは大変だと思っている。そういう意味で外注になるのではないか、修繕を頼むにしてもそれなりのコストが必要だろうと考えている。

もう1点。当地域(公民館周辺や小学校を含む)は、水害の場合には3m水没するので、2階に避難するしかない。3mとなると何とか2階で耐えられるかというところで、ちょうど小学校の裏側の面影山に平らなところがあり、桜を植えたりしているが、子どもたちの避難場所としては非常にいいと思っている。そこを整備させていただく中で、東屋なのか上屋だけなのかはわからないが、雨宿りができたりお年寄りが日光を避けることができたりとか、そういう形が作れば、公園的な要素もあるし、避難場所に十分使える。小学校からはすぐ近いので、避難訓練でも使える。そういうことも今すぐとはいかないが、今後考えていけたらと思っている。使いやすい補助があれば、やれたらなというふうに考えている。

【協働推進課】

宝くじの助成事業は、修繕は該当にならないと思う。修繕であれば、先ほどの輝く中山間地域の補助金で資材を調達し、修繕も併せて行うことが考えられると思う。

宝くじの助成事業は、同じ事業に国、県、市の補助金が入っていると活用できないため、事業としては別々に考えていくことが必要だと思うが、ジャッキで上げて修繕することが該当するかどうかは、本市では判断がつかないので県に問い合わせ確認してみたいと思う。後日、公民館を通じてお返しさせていただきたいと思う。

【地元】

テーマ③の面影山の環境整備の話とテーマ①の世代間交流の話と重複する部分があって、テーマ①の人材づくり、まちづくりを推進する補助の話をしたい。この補助をもう少し使いやすいものにしていただきたいと思う。

本市には、海岸部から都市部、山間部までいろんな地域があると思うが、それぞれの地域のニーズに応じて柔軟にまちづくりの費用が使えるようにしていただくとありがたいと考えている。

まちづくりの費用をいきなり増額して欲しいという話ではなく、例えば、子どもたちや若い人に参加していただこうとすると、結構、飲食費の割合(ウェイト)が高い。ご承知のとおり飲食費は補助対象外経費ではあるが、こういう事業だったら当然必要経費だというような少し柔軟なことがお願いできればと思う。まちづくり協議会あるいは自治会区長会等とも、その辺の予算の工面にも、手続きにも苦慮しているので、希望としてお願いしたい。

【協働推進課】

使いやすい(補助金)ということで、(一括交付金のお話をしたいと思う。)

現状が、公民館で行っている生涯学習事業の会計、公民館が事務局を担っていただいているまちづくり協議会補助金の会計があり、あと地域の地区費もあると思う。

例えば、(一括交付金は)生涯学習事業とまちづくり協議会の会計を一体化・一本化することで、ある程度柔軟に活用していただけたらと思う。

ただ、これはまちづくり協議会、まちづくり協議会に準ずる地域の運営組織が補助金を受け取って活用していくという流れになる。公民館は事務局だからと、公民館に全て任せるのではなく、地域の皆さんが地域の課題を一生懸命掘り起こし、どういうふうはこの一体化したものを有効に使っていこうかと考えていただく必要がある。公民館の学習機能も活かしつつ、地域の人材を育成しながら、まちづくりも一体的に行っていくという形が整わないと、(地域が)この一括交付金に移行するのはなかなか難しい。まず、ここの部分が押さえられてないといけないと思う。その後の事務としては、別々(の会計)で行っていたものが一体化するので、1つの会計の中で支払いが全部でき、自分たちで有効な活用方法を考えられるというところでは使いやすいと考えている。

組織を、今であれば公民館運営委員会が公民館事業に関して意見を言ったり、その事業に関して協力していただいたりしているが、そこをまちづくり協議会が公民館事業に対して、地域にとってはこうがいいじゃないかというような意見をいただくとともに、公民館事業にもご協力いただく体制を整えていただければ、この一括交付金を申請していただくことができるので、ぜひご検討いただけたらと思う。

面影のように大きい地区であれば、公民館運営委員会は公民館運営委員会担当の人、まちづくり協議会はまちづくり協議会担当の人とできるかもしれないが、小さい地区では公民館運営委員会もまちづくり協議会も同じ人が役員をしていて、公民館に行って公民館の運営について協議し、また別の日にまちづくり協議会でまちづくりの話をする。そういったところでも負担になっている。

組織を一体化させることで、まちづくり協議会の中で、公民館の運営もまちづくりとあわせて協議ができる。そういった形で組織のスリム化と、事務を効率的にすることができるのでご検討いただけたらと思う。

テーマ②「住みよいまちづくりの推進について(くる梨、循環バス)」

【地元(説明)】

今、中心市街地を活性化するという1つの大きなテーマの中で、くる梨が運行されていると思う。当地区でこの100円循環バスについて、提案やお願いをさせていただきたいと思う。

当地区も他地域と同様に高齢化の波が来ている。75歳以上で、免許返納した方がたくさんおられる。そういった方が病院に行く、買い物に行く、鳥取駅まで行く。いろんな所用のために、ま

ずタクシーを呼ぶという方が結構ある。経済的に余裕があればそれでいいと思うが、住民の方やあるいは役員からもくる梨がそこまで来ているのにと(いう話を聞く)。くる梨は市立病院まで、あるいは産業道路や駅南の方まで来ている。美保とか美保南とかあるいは面影、岩倉等々までくる梨の運行が広がると、お年寄りだけではなく車に乗れない障がいのある方、あるいは子どもたちにも財布にも優しいと思う。くる梨の(当地区への)拡充をお願いしたい。

それが難しいということであれば、循環バスについてお願いしたい。当地区は循環バスが運行されている。市内で会合等があるときに利用させていただいているが、乗っていると料金が安くなる区間や高くなる区間があり、またくる梨のように100円でもない。料金設定が非常にわかりにくい。高齢者だけでなくいろんな世代の方が利用されるということで、ぜひとも市内と同様に100円循環バス、できればくる梨の運行を少し広げていただければ、住民にとってもありがたい非常にわかりやすいと思う。

毎年、敬老会等々でも交通手段がない方には、現状タクシーを予約して公民館に来ていただくようにしているが、実は自治会の費用負担が結構あり、また社会福祉協議会の費用負担とかある。すぐ前の県道まで100円バスで来られれば、非常に扱いやすいという声をよく聞く。ぜひご検討いただければと思い提案させていただく。

もう1点。以前、時刻表がないバス停があると言ったが、実はどのバス停にも時刻表はあった。時刻表がないのではなく、道路の片側にしかバス停がないということ。

例えば、公立鳥取環境大学の学生がバス停のないところに立っていて、見ているとバスが止まり、学校あるいは市内にちゃんと乗って行かれる。調べてみると、黄色でマーカーしたバス停が当地区の中では片側にしかないようだ。(これらは)銀行や桜ヶ丘中学校がある県道や市道沿いにあり、時刻表は道路を横断して見てまた帰ってくるようだ。その辺はバス会社の方になるかもしれないし、民地であったりあるいは道路が狭かったりといろんな事情があるかと思うが、(住みよいまちづくりとして)お願いしたいと思う。

【交通政策課】

くる梨の概要や面影地区の路線バスの運行状況、市の取組についても少しふれさせていただきながらお話したいと思う。

まず、くる梨は平成16年1月から本格的に運行を開始し来年1月で丸20年を迎える。その間600万人の大変多くの方に利用していただいている。くる梨は中心市街地を円滑に移動するための交通手段として導入し、赤青緑の3コースで各コースが平日は31便運行している。

中心市街地は、行政・福祉・医療・教育・文化・金融・商業などのいろいろな分野の主要な施設が集積をしている地域という特性があり、(くる梨は)そういう地域を円滑に移動できるための交通手段という位置づけにしている。中心市街地にお住まいの方はもちろん、市民の皆様が中心市街地に通学・通勤したり、通院や買い物、用事を済まされたりというような場面で使っていた

だけの交通手段という側面もあるし、県外からの観光客の方、ビジネスマンの方、様々な方が利用される交通手段ということで、少し路線バスとは線を引かせていただいた位置づけになっている。

いろんな地域から、うちの地域にもくる梨を走らせて欲しいとか、ちょっとルートを広げてもらえないかというご要望をたくさんいただいている。導入の目的とか、あるいは昨今の運転手不足のような問題があり、なかなか拡充できないというような状況でご要望にはお応えできていないのが現状としてある。

一方で、当地区の路線バスの状況は、旧国道の沿線地域ということで、大変多くの路線バスが現在運行されている。今、6路線で平日だと1日70便を超える便数が双方向で運行されている。運転手不足で路線バスが、廃止・減便となる中、こういう地域は多くない。運賃では、大杵それから面影団地のあたりは180円から190円。正蓮寺とか東今在家、桜谷のあたり、雲山については220円で鳥取駅まで行けるという状況で、路線バスをたくさん利用されている方は定期券を購入されていると思うが、日割で計算すると大体くる梨と同様の100円前後で乗っていただいている。本市としてもそういう路線バスをたくさん使われる方には財政的な支援をさせていただきたいと定期券の半額補助をしている。免許返納をされた方、それから65歳以上の方については、半額で購入していただけるため実質50円か60円で乗っていただいている。皆さんも地域の方に制度の周知をしていただけたら大変ありがたいと思う。

それから、くる梨が市立病院まで走っているというお話だが、くる梨は中心市街地の運行となっているため(駅の)南側はさざんか会館の辺りまでで、市立病院までは市立病院循環線が走っており、くる梨とはまた別の路線バスとなっている。

バス停については、バス事業者がそれぞれ利用状況も踏まえながら設置をされているので、なかなか行政としてここに設置して欲しいと言うことはできないが、地域からそういうご要望があったということは、その都度バス事業者にはお伝えするようにしている。今日伺ったお話についてもバス事業者にお伝えしていきたいと考えている。

高齢者の方の移動手段については、福祉部門の方で敬老会とか事業で移動されたいということがあれば、マイクロバスとか民間バスの使用料を助成するような制度があるので、そちらの方もご活用いただきたいと思います。

【地元】

中心市街地ということできるとくる梨の移動手段はあるが、現に話題となっているJAのスーパーがなくなったりして皆さんの買い物ラインが消え、生活ラインを結んでいかないと思う。今の路線バスは鳥取駅に行くとか、県庁に行くとか大きな目的に向かうような状態だが、循環バスが市立病院まで来ているのであれば、そこを拠点として次のバスが動けるような形にしてはどうか。その拠点に行けば次の拠点まで移動できるということになれば、スーパーの駐車場などは結構広い

ので、そこと提携ができればバスも入れ込まれると思うし、生活と密着した形になっていくだろう。定期代や交通費の負担問題もあると思うが、基本的には市民が便利に使えるというのが一番大切なことだと思うので、生活を中心としたバスの考え方をしてはどうかと思う。

路線(定期)バスは基本的な役目を、くる梨や循環バスは市民の生活の交通手段に使えるような役目をと、棲み分けができる交通体系にしていただけると、駅南に住んでいる人たちにとっても活用の仕方があると思う。当地区にはスーパーもあるので、他の地区と交流することも可能になる。そういう意味で食材を買いに来ていただくのも当地域にお金が落ち、商売しておられる方たちにとってはメリットがあると思うし、今高齢化が進んでいるので、生活利便を考えたような形での運行の仕方を一度ご検討いただきたいと思います。

【交通政策課】

以前の交通は、交通事業者がダイヤとルートを決めて、乗る・乗らないは利用者の判断みたいなところがあったが、最近はそういう考え方ではどんどん利用者が減っていく。利用者が少ないから収益が減り、バス事業者としても維持が難しいから減便をしていく・廃止していくという悪循環がずっと続いていて、これでは駄目だということでいろいろな交通事業者が一緒になって地域の方の生活に合わせた交通に変えていこうという流れになってきている。

運転手不足についても、今の交通体系をこれから20年後・50年後・100年後に維持していくのはもう不可能で、地域の方の利用しやすい交通に組み替えていくというような改変時期になっている。地域の交通というのはどうあるべきかを地域の皆さんと一緒に考えて、この交通体系を将来的に維持していくような形で考えていく必要があると思っている。

それからスーパー閉店のお話があったが、特に南部地域については、今、路線バスが廃止になって、共助交通を導入されている地域がある。共助交通については、地域が運行主体となって予約があったときに走るという形態となっている。交通空白地だけに認められる制度のため、そのエリアを越えて運行するということがなかなか難しいというデメリットもある。

その地域にスーパーがなくなって買い物が難しくなってきた状況を何とかしたいということで、地域の方が隣の地域のスーパーまで行きたいというご要望があり、それを国と話をしたり、あるいは関係者と話をしたりして、一時的ではあるが隣の地域のスーパーまで行けるようにした。やはり生活があつての交通で、生活と交通を一緒に考えていく必要があり、皆さんと本市の交通をどうしていくのか一緒に考えていきたいと思っている。

【地元】

民間の事業者も絡んでいるので、行政だけで回答してということはなかなか無理なのかなとは思いますが、一步踏み込んで少しでも市民が喜ぶような情報等があればまた教えていただきたいと思います。

【地元】

もう1度バスの運行に関して、当然その費用は定期券にすると100円を割るところもあれば、100円に近いところもあるということはよく理解しているが、例えば年金生活の中で100円を入れて乗れるのと、一時に1万円や5千円を出して定期券を購入しバスに乗るのとでは大きな違いがあると思う。その日の小銭で乗れるような仕組みとか、例えば都市交通カードをかざせば一定の部分が使えるというような制度であるとか、100円で乗れるというのは非常にありがたいと思う。もちろん大変なことはよくわかるが、ぜひご検討いただければありがたいと思う。

【交通政策課】

市内全域を100円で移動できるようになれば非常に便利だと思うが、本市の路線バスへの財政支援もどんどん膨れ上がっている。また、運転手が不足する中で、以前のように公費を出せば維持ができるというような状況ではなくなっている。効率的な運行、利便性の向上のバランスを検討しながら、これからの地域交通を考えていきたいと思っている。

テーマ③「住みよいまちづくりの推進について(面影山の周辺整備)」

【地元(説明)】

当地区で先ほどのまちづくり協議会を発展的にやろうとしたときに、協議会の常任委員で(地域の中心でシンボルである)「面影山」をしっかりと維持管理ができ、地域に誇れる場所とするためには環境整備が欠かせないという話になった。

ところが、役員もみんなも毎年、確実に年を重ねるためいつまでも元気なわけではないし、面影山も急傾斜地の割合が多いため、環境整備には素人だけではなく外部の業者に発注するなどいろいろな方法で維持管理をする必要があると考えた。

市から環境整備に関する補助などお話を伺いたいと考えていたところ、テーマ①で既に回答をいただきありがたいと思っている。いずれにしても面影山にはたくさん遺跡があり史跡もある。今日は、歴史を語る会の方もおられるが、取り組みを非常に頑張らせてされている。何か費用的なことをお願いができればありがたいと思う。

【協働推進課】

どのくらい活用していただけるかというところはあるが、先ほど補助金であるとか費用の話を見せていただいた。まちづくりの中で考えていただきたいのは、やはり一瞬の凄い力も大事ではあるが、その力をみんなが継続していく、無理のないようにしていくということも大事なのではないかと思う。面影山の整備ということもどのようにされるかということも今後大事だと思う。

本日の資料「地域アドバイザー派遣のご案内」というチラシについて説明させていただきたい。

まちづくりをどのように進めていこうとか、こういう課題をどう解決していこうかとしたとき、自分たちだけではなかなか発想が広がらなかつたりすることがあると思う。この地域アドバイザー派遣制度をご活用いただくことで、アドバイザーによりちょっと視点を変えることができるのではないかと思う。

実際、どう活用されたかという事例を掲載している。各まちづくり協議会はコミュニティ計画を策定しておられるが、これは地域の中にどのような課題があるかということが出ている。その課題に自分たちはどうして行こうかというようなことを計画していただいた内容になっているが、策定から十数年経過し地域の状況も変わってきている。人口減少、少子高齢化も当時とは比較にならないくらい急速に進展してきている状況がある。よくお願いするアドバイザーは県民活動活性化センターの方だが、そういった背景を踏まえ、地域の現状や少子高齢化の現状であるとか、その地域の中でも高齢者の1人世帯があるというような現状がある中で、自助がなかなか成り立たなくなって、(地域)全体が高齢化していくと本当に共助もなかなか難しいという中で、今何が必要かというようなお話もしていただける。アドバイザーに入っていて、地域の中で何が必要か、どういうことを地域でしていこうかというようなことを1つ1つ整理していただく機会にもなるのではないかと思う。

先ほど一括交付金の中で組織を見直し、そしてもっとスリム化もできるという話をした。そのような組織のあり方とか、活動の方向性についても話をしていただけるし、他の地区にも(アドバイザーとして)入っておられるので、いろいろな地域の話が聞けると思う。ぜひご活用いただけたらと思う。

活用いただくときは、協働推進課にご相談いただき、ヒアリングしながら派遣するアドバイザーとか、時期の調整とかもさせていただく。ぜひ地域の中でご検討いただけたらと思う。

【地元】

たくさんのご支援、事業、計画をしていただいて、活用させていただきたいなと思う。

この面影には50年ぐらい歴史がある郷土史研究会があり、大変な記録が残っている。資料も冊子もたくさんあり、これらを研究するだけでももう何年もかかりそうな感じがする。

遺産として山の中にいろんな石碑とか、看板とか、標柱とかたくさんあるが、それらが朽ちてきたりしている。以前は、周囲を綺麗に囲ってあったところが、残念ながら竹やぶになってしまったりしている。当時は郷土史研究会と歴史研究会と二つあって、何十人もいたそういう方々が綺麗にしていた。

(当地区には)大変貴重な遺跡がたくさんある。国府や鳥取城と近いためいろんな歴史がある。私達もそれを繋いでいきたいと願っているが、やはりお金と力がなかなか難しいので、こういう

支援をしていただける、財政的にも支援していただけたりとか、自分たちの力の及ばないところは業者に頼んだりとかもできるようにしていただけたらいいなと思う。

何年も町内の役や自治会の役をしながら、毎年のように大きな木を切ってきたが、もう危険だと思う。そうなるとう業者を頼らないとできない。でもそれをしないとこの遺産が、面影山が、古代から残る面影の歴史が繋いでいけない。実際に面影という名前を聞いて住みたいと言って来られた方もいる。こちらでも計画を頑張らないといけないが、ぜひ支援をと思う。

【地元】

実際に古墳が山の中にたくさんあるが、こういう状況下で、すぐ木や竹でどこが古墳なのかわからない状態になる。今はとりあえず標柱を建てたが、文化財的整備を含めた助成を出していただくことができれば、また保全とは違う形で財産を残していけるのかなと思っている。それも一度ご検討いただけたらと思う。

【協働推進課】

古墳を文化財的整備するというお話は、文化財課に聞いてみたいと思う。

【市民生活部長】

最後に一言お礼のご挨拶をさせていただきたい。本日は、皆さんが面影地区のことを考え、面影山をととても誇りに思っておられるということを感じた。前向きな話をさせていただけてとてもありがたいと思う。助成制度も書類作成などいろいろあると思う。そこも相談していただきながら、本市としても使っていただきたいと作っている助成制度なので、活用していただければと思う。この懇談会は3年に1回となっているが、普段から疑問に思われることやこういうことをして欲しいということがあれば、遠慮せずにいろんな意見を届けに来ていただけたらと思う。